

評価計画				自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策
重点目標	具体的目標	具体的取組事項	評価指標	評価	取り組み状況と課題	評価	意見	
生徒一人一人の理解に努め、生徒の基本的生活習慣の確立を図るとともに、自立して生き抜く力を養う	教職員の生徒理解を深める	いじめ防止委員会、各種アンケート(QU、人権等)、中学校情報共有、個別面談	委員会開催回数、評価アンケート	B	いじめ防止委員会毎週1回、計28回開催。「教員の相談対応、相談しやすさ」QSE+：生徒77、保護者79。教員間での生徒情報の共有はきめ細かくできた。県外中学校や保護者との連携が課題。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・登校しにくい生徒を見捨てず、しっかりサポートしてやってほしい。何か自信を持つなどのきっかけで子どもは変わってくることもある。 ・江風寮が満杯状態で指導も難しくなる。 ・旧邑智中学校寮をカヌー部寮にするなどは考えられないか。 ・自宅が遠方で帰省できない寮生もいる。友人宅への外泊について、回数やルールを決めて許可してやるなど検討しては。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生についての中学校との情報共有を、支援シートを使用してきめ細かく行い、入学後の生徒支援につなげる。 ・全教員で全授業での正装指導を徹底する。 ・寮での生徒自治の仕組みを作り、公共施設や持ち物について自主的な管理ができるようにする。 ・生徒の外泊許可等、保護者から要望のあった校則の見直しについては、PTAで相談協議しながら検討する。 ・感染症対応については継続して方策を検討する。
	基本的生活習慣の確立を図る	あいさつ運動、登校指導、服装指導、清掃指導、寮生活指導	評価アンケート	B	「規律指導」QSE+：生徒75、保護者82。服装規律が不十分な生徒への指導について、徹底した指導を望む意見が生徒からあった。あいさつは非常に良い。整理整頓、持ち物管理ができない生徒が多い。			
	心身ともに健康な生徒の育成を促す	朝読書、読書推進、スクールカウンセラー、健康観察、人権研修、寮生活指導	評価アンケート、出席率、皆勤率	C	QSE+：「図書館環境」生徒84。「健康支援」生徒66、保護者68。「人権理解指導」生徒89、保護者67。出席率97.9%、皆勤率43.9%。生徒人権委員会の発足により、人権への関心向上に効果があった。体調不良者、感染症対応等への対応が課題。			
生徒の進路実現のため、教員の授業力・人間力の向上に努め、学力の向上を図る	授業を改善し、学習に取り組む姿勢の向上を図る	授業規律、ICT活用、授業研究会、夜勉	授業評価、家庭学習時間調査	B	QSE+：「授業充実」生徒83、保護者70。授業前着席については良好、提出物もほぼ期限を守っている。試験期間中の学習時間は平均170～180分。平常時の学習時間確保に課題。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は国公立大学への進学率などに注目している。 ・早期からもっと学習面で鍛えなければ、部活動と同じくらい学習に取り組ませることが学校の魅力となる。 ・学園祭準備期間中などにも可能な限り学習時間を確保して欲しい。 ・部活動だけでなく、学習にも力をそそげるよう、文武両道を目指せる体制を推進して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験期間以外の学習時間調査を実施するなど、生徒の平常時の学習状況を把握し、部活動と両立可能な課題を与えるよう工夫する。 ・希望者が積極的に個別模試などを受講できる体制を検討する。 ・行事と授業のバランス、授業時間の確保の方策を見直す。 ・現在の進学ゼミに主担当者を配置するなど、生徒が所属している部活動の顧問と連携しながら、進学希望生徒への早期支援ができる体制作りを検討する。
	計画的な進路指導により共通理解をもって指導する	進路検討会、コース選択検討会、進学ゼミ、個別教科指導、面接指導	評価アンケート	B	QSE+：「進路情報提供」生徒81、保護者77。全教員体制での進路・面接指導実施。早期の進路に関する情報収集や研究の時間確保が必要。学校内外の様々な場面で卒業生を講師として活用した。			
	教員研修を積極的に行う	校内研修、校外研修、教科研修	研修参加度	A	校内研修の服務・ハラスメント・情報モラル研修、人権研修にほぼ全職員が参加。その他、ICT活用研修、教科研修、経験者研修など、すべての教員が何らかの校外研修に1回以上参加した。			
地域を知り、地域と連携することによって、魅力と活力ある学校づくりを推進する	地域に根差したキャリア教育を実践する	総合的な学習、ふるさと学、まちキャン	生徒レポート	B	1年生総合学習では、ふるさと学として周辺地域事業所のパンフレット作成とおした地域・職業理解活動を実施。地域で育てたい生徒像と3年間を見通した地域活動プログラムの構築が課題。	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・まちキャンなど、地域の方に中央高生の活躍を見てもらう機会が増えている。 ・地域連携は良くできている。地域催事には中央高校生がいることが当たり前になり、明るく活発な雰囲気になっている。 ・広域に在住する保護者への情報発信として、現在のメール配信システムをより実効性の高いシステムに改善してはどうか。 ・県外保護者に対して、関東、関西で地区PTAを行うなどの工夫を検討しては。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力化コーディネーターのサポートを受けながら、生徒の成長を見とおしたキャリア計画プログラムの整理を行う。 ・現在の「eメッセージ」の他、「マチコミメール」など、情報がより効果的に伝わる他の配信システムを研究する。 ・県内外の地区PTAの開催を含め、PTA研修として県外での活動を企画するなど、広域の保護者が参加できる仕組みを検討する。
	地域との連携を深める	地域系部活動、地域産業体験、地域意見交換会、まち親交流会	評価アンケート	A	QSE+：「地域連携度」生徒87、保護者93。地域との合同清掃やえごま収穫、三江線観光支援など、新しい活動を実施。周辺3地区の小中学校保護者との意見交換会を開催。フェイスブック開設。			
	中学校との連携を深める	オープンスクール、学校説明会、部活動説明会、中高連携授業	新規説明会・連携授業開催数	B	オープンスクールには県内外87校が参加。部活動別の説明会は5部の顧問が延べ13中学校で実施、中学生39名保護者23名に面談。また、英語科で中高交流授業を実施した。			
部活動、学校行事、体験活動等を充実することにより、生徒の豊かな感性や知性を醸成し、自己肯定感の向上を図る	部活動への加入を促進する	部活動紹介充実、地域系活動充実	部活動加入率	B	部活動加入率91.6%。2・3年生では部活動に入部していない生徒もほぼ全員が生徒会や家庭クラブで活動しているが、1年生の途中退部者への対応が課題。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全般に、部活動、生徒会は大変良く活動している。 ・カヌーや野球、吹奏楽以外にも、統合前から大切にされていた、地域特性のある部活動(剣道、バレーボール、バスケットボールなど)をもっと推進して欲しい。体協やスポ少などと継続して、安定した活動ができるような体制づくりができないか。 ・部員が少ない部活動の生徒募集対策が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部顧問による各中学校での部活動説明会をコーディネーターの支援を受けて企画し、部活動ごとの部員募集を積極的に行う。 ・近隣の中学校や地域団体と連携をとり、合同部活動を企画実施する。 ・部活動に所属していない生徒に他の部活動や生徒会・家庭クラブ等への勧誘や地域活動への参加を呼びかけ、授業時間外での自己実現の場を持たせる。
	部活動の実績を向上する	外部指導者確保、部活動コーディネーター導入	大会成績、評価アンケート	A	陸上部国体4位、カヌー国体・全国総体出場、吹奏楽全国管楽コンテスト出場、自然科学部全国総文祭出場。魅力化コーディネーターバレー部指導者着任。QSE+：「部活動活発さ」生徒85、保護者91。			
	学校行事の主体的運営を図る	PTA・卒業生会・後援会との連携、生徒会活動充実	各役員会意見	A	体育祭を日曜に実施し県外保護者も多く参加。10周年事業計画を含め外郭団体との連携を密に行った。生徒会も県のハイスクールプロジェクトにも有志生徒が参加し意欲的に活動した。			